

監獄則

全

東 京 圖 書 館					
一	一	七	六		
	五		七		
冊	六	架	函	屬	類
	号				

67
156

CZ
765
01

明治十八年四月

監獄則

全

CZ
765
01

監獄則目錄

第一篇

第一章 汎則

第二章 監署ノ規程

第三章 監獄ノ構造

第二篇

第一章 役法

第二章 工錢

第三章 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ヲ受タル囚徒押送ノ

第四章 假出獄免幽閉ノ者ニ貸與スル屋舎

第三篇

第一章 給與

第二章 疾病

第三章 書信

第四章 接見

第五章 差入品

第四篇

第一章 教誨

第二章 賞譽

第三章 懲罰

諸様本

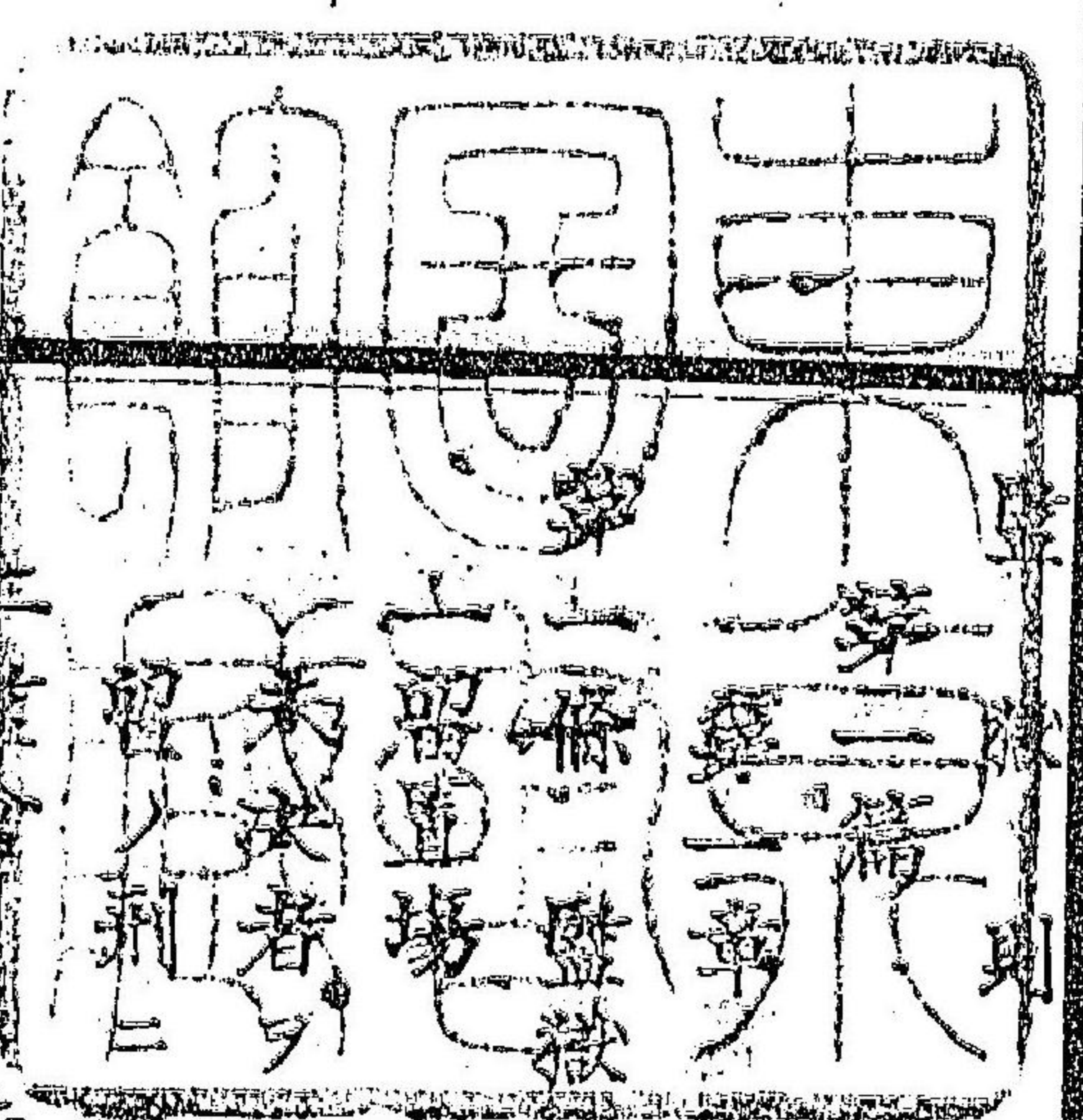
懲治人名籍

未決者名籍

已決囚名籍

假出獄ノ証票

時限表



凡則

條一 監獄ヲ別テ左ノ六種ト爲ス

留置場 裁判所及ヒ警察署ニ屬スルモノニシテ

未決者ヲ一時留置スルノ所トス但時宜ニヨリ拘

留シ刑ニ處セラレタル者ヲ拘留スルコトヲ得

二 監倉 未決者ヲ拘禁スルノ所トス

三 懲治場 懲治人ヲ懲治スルノ所トス

四 拘留場 拘留ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘留スル

所トス

五 懲役場 懲役ノ刑及ヒ禁錮ノ刑ニ處セラレタル

者ヲ拘禁スルノ所トス

六集治監 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ニ處セヲレタル者ヲ集治スルノ所トス

北海道ニ在ル本監ハ徒刑流刑ニ處セラレタル者ヲ集治ス

第二條 監獄ハ内務卿ノ管轄ニ屬ス但陸海軍ノ管轄ニ屬スルモノハ此限ニ在ラズ

第三條 集治監ハ内務卿之ヲ直轄ス留置場監倉懲治場拘留場懲役場ハ警視總監又ハ府知事縣令之ヲ管理ス

第四條 此獄則ハ特ニ陸海軍ノ獄則ヲ以テ處分スベキモノニ適用スルコトヲ得ズ

第五條 内務卿ハ毎年其所屬官吏ヲシテ各監獄ヲ巡閱セシムベシ

警視總監府知事縣令ハ毎年三四次所轄ノ監獄ヲ巡閱スベシ

裁判官檢察官ハ時々其裁判所ニ屬スル監倉ヲ巡閱スヘシ

府縣會議員ハ臨時其府縣監獄ヲ巡閱スルヲ得

第六條 在監人ト稱スルハ未決已決ノ者及ヒ第十九條第三十條ニ記載シタル者ヲ云フ

第七條 在監人ヨリ司獄官吏ノ處置ニ對シ若シ情苦ヲ訴ヘントスルトキハ第五條第一項第二項ニ記載シタル官吏巡閱ノ際封書又ハ口述ヲ以テ申告スルコトヲ得

第八條 司獄官吏在監人ヲ管束スルハ一ニ和平ヲ秉リ罰例ニ照シテ犯則者ヲ決責スルノ外恣ニ責罰ス

ルヲ得ズ

第九條 典獄者守長ハ日夜不替ニ監房ノ内外ヲ視察シ或ハ物件ヲ査閲シ其他囚徒ノ傲惰ヲ生シ脱越等ノ事ヲカラシムルヲ要ス

第十條 新ニ入監スル者アル中ハ典獄先ツ拘引狀拘留狀収監狀又ハ處刑宣告書等ノ文書ヲ査閲シテ之ヲ領シ其領収ノ証ヲ引致シ来タル者ニ交付ス其文書ヲクシテ引致セラレタル者ヲ入監スルヲ得未決者ノ中共犯人アルトキハ其監房ヲ別異シ談話通聲ヲ禁シ法庭ニ引致ノ時モ同往セシムルヲ得ス
已決囚ハ第十六條ニ記載シタル差別ニ從ヒ其監房ヲ別異ス

第十一條 入監ノ婦女乳兒ヲ携帶セント請フ者アル

トキハ之ヲ許ス

第十二條 新ニ入監スル者アルトキハ名籍ノ様本ニ照シ其要項ヲ詳録シ一小房内ニ於テ通身ヲ搜檢シ利器其他ノ物件ヲ夾帶スルヲ拒クベシ懲治入ノ監舎ニ入ルトキモ亦同シ

第十三條 總テ監房ニ入ルノ物品ハ典獄一々之ヲ指驗シ其危險ノ虞アルモノハ一切之ヲ禁スベシ

第十四條 總テ入監入ノ携有スル財貨物件ハ悉ク點檢シテ其名數ヲ簿冊ニ記載シ典獄一々證印シテ之ヲ領置シ釋放ノ時還付スベシ

但點檢ノ際隱匿セシ貨物ハ沒收ス
若シ其領置ノ貨物ヲ以テ親屬ヲ扶助シ其他正當ノ費用ニ充ント請フトキハ之ヲ許ス

第十五條 在監人書籍ヲ着ント請フトキハ新聞紙及
日時事ノ論說ヲ記載スルモノヲ除キ修身又ハ營業
ニ必要ナルモノノミヲ許スベシ

第十六條 已決囚ハ各刑名ニ從テ其監房ヲ別異シ又
其中ニ就テ左ニ記載シタル者ヲ別異ス

- 一 十六歳未滿ノ者ト滿十六歳以上ノ者
- 二 滿十六歳以上二十歳未滿ニシテ再犯以上ノ者
ト同上ノ年齢ニシテ初犯ノ者
- 三 初犯ノ者ト再犯以上ノ者

第十七條 要犯疑獄ニ係ル者ヲ拘禁スル未決監ニ於
テハ其氏名ヲ呼バヌ番号ヲ以テ之ニ換フヘシ但著
衣ノ外襟ニ白布ヲ縫着シ其番号ヲ墨書シ監房ヲ出
入スル毎ニ皂布ヲ以テ覆身シ當眼ノ所ニ小孔ヲ穿

テ共犯者ヲシテ共ニ拘禁ノ身タルヲ窺探スルヲ得
カラシム

第十八條 放恣不良ノ者ヲ懲治場ニ入レ矯正婦善セ
シメント其尊屬親ヨリ願出ルルハ第二十條第一項
ノ例ニ照シテ處分スヘシ

矯正婦善ノ爲メ懲治場ニ入ルヘキ者年齢ハ滿八歳
以上滿二十歳以下ヲ限リトス

第十九條 懲治人ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ云
フ

- 一 刑法第七十九條第八十條第八十二條ニ從ヒ懲
治場ニ留置スル幼年ノ者及ヒ瘡痍者
 - 二 尊屬親ノ憎願ニ由テ懲治場ニ入レタル者
- 第二十條 前條第二款ニ記載シタル懲治人ハ戸長ノ

証票ヲ具スルニ非レハ入場ヲ許サス但シ在场ノ時
間ハ六個月ヲ一期トシ二年ヲ過ルヲ得ス
入場ヲ請ヒシ尊屬親ヨリ懲治人ノ行狀ヲ試ル爲メ
宅舎ニ帶往セント請フトキハ其情狀ニ由リ之ヲ許
スヘシ

第廿一條 懲治人ハ左ノ年齢ニ從ヒ其居房ヲ別異ス

一 十六歳未満ノ者ト満十六歳以上ノ者

二 満十六歳以上二十歳未満ニシテ再ヒ懲治場ニ

入シ者ト全上ノ年齢ニシテ初テ入場スル者

第廿二條 在監人ヲ他監ニ移ストキハ其名籍又ハ處

刑ノ宜告書其他必用ノ文書及ヒ領置ノ貨物ヲ具シ

テ送致ス可シ其發遣ノ途中ニ在テノ行狀ハ押送官

吏之ヲ記述シテ典獄ニ知會スヘシ

在監人ヲ裁判所又ハ他監ニ押送スルトキハ戒具ヲ

用ヒ男下女ヲ別ツヘシ但懲治人ハ戒具ヲ用ヒス

第二十三條 典獄ハ看守長及ヒ看守ヲシテ常ニ在監

人ノ行狀ヲ録サシメ賞罰ヲ行フノ考據トナスヘシ

第二十四條 賞表ヲ與ヘタルトキハ賞譽簿ニ其氏名

及ヒ賞詞ヲ記載シ號奉シタルトキハ之ヲ削除スヘ

シ但其賞罰ヲ行ヒタル旨ヲ囚徒ニ示スハ第二十六

條ノ例ニ依ルベシ

第二十五條 特赦ヲリタルトキハ速ニ其旨ヲ内務卿

ニ申報スヘシ

第二十六條 特赦ヲ受ケタル者アルトキ免役日若ク

ハ日曜日ノ午後ニ在テ他ノ囚徒ヲ集メ其旨ヲ聽カ

シメ仍舊之ヲ揭示スヘシ

第二十七條 假出獄ヲ許サレタル者ニハ其証票ヲ與ヘ警察送傳シ以テ其居住セントスル地ニ押送スヘシ

監署ニ領置セシ金錢ハ出獄者ニ携帶セシメス其金員ヲ録シテ共ニ其地ノ警察官ニ送致スヘシ

第二十八條 假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者其刑期間ハ典獄ニ於テ營業ノ方法ヲ指示シ其未署ヲ要スルトキハ召喚スルコトヲ得

第二十九條 在監入中能ク獄則ヲ守ル者ヲ撰テ傳告者誘工者トナス傳告者ハ官吏ノ命令ヲ在監人ニ傳ヘシメ誘工者ハ工場ニ在テ服役者ヲ勸誘セシム但傳告者誘工者ハ滿六箇月以上其用務ヲ繼續セシムルヲ得ス

傳告者及ヒ誘工者ハ私ニ在監人ヲ使役シ若クハ凌辱スルノ所爲アルヲ許サス

第三十條 刑期滿限ノ後頼ル可キ所ナキ者ハ其情狀ニ由リ監獄中ノ別房ニ留メ生業ヲ營マシムルコトヲ得

第三十一條 刑期滿限ノ者ヲ解放スルハ滿期ノ翌日午前第十時ヲ過ヘカラヌ

第三十二條 死刑ノ執行ハ午前第十時ヲ過ルヲ得ス其執行中ハ看守ヲシテ嚴ニ刑場ノ門戸ヲ護ラシム可シ

其遺骸ハ死相ヲ檢シタル後仍ホ二分時ヲ過サレハ埋葬若クハ下付ヌ可カラヌ

第三十三條 刑死者又ハ死亡者アルトキハ其年月日

時ヲ記シ典獄ヨリ本籍ノ戸長及ヒ近地ノ親屬若クハ故舊ニ通知スベシ其監署ニ領置シタル貨物ハ親屬ニ下付ス若シ親屬ナキトキハ遺骸ヲ領取シタル故舊ニ之ヲ下付ス但死者ノ身ニ纏ヒタル衣服ハ此限ニ在ラス

親屬遠地ニ在テ物品ヲ送付スルニ入費ヲ要スルモノハ其物品ヲ販賣シテ代價ヲ送付スルコトヲ得但送費ハ親屬ノ自辨キス

若シ其物件又ハ代價ヲ受クヘキ者ナキハ之ヲ沒收ス

第三十四條 在監入逃走スル者アル時領置ノ貨物ハ前條ノ例ニ依テ處分ス可シ但沒收ハ逃走ノ日ヨリ滿一個年ヲ經ルノ後ニ非レハ之ヲ處分スルコトヲ得

ス

領置ノ工錢ハ第五十七條ニ照シテ處分スヘシ

第三十五條 監獄ノ近境ヨリ發火シテ罹災ノ虞アル中ハ司獄官吏其形勢ヲ量リ在監人ヲ他所ニ押送シ其災ヲ避シムベシ

水火風霞其他激甚ナル變災ニ際シ在監人ヲ押送スルノ違テキ中ハ要犯疑獄ニ係ル者ヲ除クノ外一時解放スルヲ得

第三章 監獄ノ構造

第三十六條 留置場監倉懲治場拘留場懲役場ハ每府縣ニ置キ集治監ハ適當ノ地ニ之ヲ置クモノトス

留置場監倉懲治場拘留場懲役場一區畫内ニ在ルモノハ牆壁ヲ以テ之ヲ區畫ス

第三十七條 未決監已決監及ヒ懲治場ハ男監女監ヲ
嚴劃スヘシ

甲ノ監房ニ在ル者ト乙ノ監房ニ在ル者ト被是交談
シ又ハ物件ヲ交遞スルノ便ヲ得サラシムヘシ各監
房ノ鑰匙ハ其型式ヲ同クシ甲乙適用スルヲ要ス

第三十八條 密室ハ監倉ニ設ケ他人ト交通スルコト
ヲ得サラシムヘシ
闇室ハ已決監ニ設ケ暗ニ空氣ヲ通セシメ毫モ光線
ヲ通セシメサルヲ要ス

密室闇室ハ一室一人ヲ限トス
第三十九條 接見室ハ監舎ノ首部ニ設ケ其壁面ニ方
三尺入口ヲ開キ之ニ縱櫛ノ格子ヲ嵌メ格子ヨリ三
尺許ヲ距リ柵欄ヲ設ケ在監人ハ格子内ニ立シメ外

人ハ格子外ノ柵欄ニ倚ラシムヘシ但懲治人ノ接見
室ハ此例ヲ用ヒヌ

第四十條 燈火ハ監房外ニ置キ障得スルヲ虞テカク
シムヘシ
第四十一條 死刑場ハ監獄ノ一隅ニ設ケ牆壁ヲ以テ
外見ヲ防ク

監獄則第一篇終

第二篇

第一章 役法

第四十二條 定役ニ服スル者ノ作業ハ刑名ニ因テ之
ヲ斟酌シ毎囚一日ノ秤程ヲ定メテ服役セシム滿十
二歳以上十六歳未満ノ者滿六十歳以上ノ者及ヒ病
後ノ疲勞若クハ身体ノ虛弱ニ因リ勞作ニ勝ヘサル

者ハ體力ニ應シ作業ノ料程ヲ寛恕ス
若シ已ムヲ得ス外役ニ服セシムルトキハ鉄鎖ヲ用
テ二囚毎ニ聯絆シ笠ヲ用テ其面ヲ掩ハシム但外行
ノ囚徒ハ一組十人以上十五人以下ト定メ看守一人
押下二人以上ヲシテ之ヲ監セシム
外役ノ囚徒道路往來スル時ハ務メテ他人通行ノ妨
ト爲ラサラシムルヲ要ス

第四十三條 毎日囚徒ヲシテ役ニ就カシムルニ際シ
悉ク之ヲ監房外ニ整列セシメ看守長及ヒ看守點檢
ヲナスヘシ歸監セシムル時モ亦同シ
第四十四條 左ニ記載シタル日ハ服役ヲ免ス父母ノ
喪ニ遭フ者モ亦一日免役ス

一月二日

元始祭

孝明天皇祭

紀元節

春季皇靈祭

神武天皇祭

秋季皇靈祭

神嘗祭

天長節

新嘗祭

十二月三十一日

第四十五條 囚徒ノ專習スヘキ工業ハ投業手若クハ
工業殊等ノ囚ヲシテ之ヲ導カシム其刑期一年以下

ノ者ニハ習熟シ易キ工業ヲ授クルヲ要ス

第四十六條 定役ニ服セサル囚徒ト雖モ典獄之ヲ勸誘シテ其将来ノ生業ヲ計リ攝生又ハ親屬扶助ノ爲メ勞作セント請フニ至ラシムルヲ要ス其工業ノ種別ヲ定ムルハ典獄ノ指示ニ依ル

未決監ニ在ル者坐作ノ業ヲ爲サント請フトキモ亦同シ

第四十七條 懲治人ニハ教誨ニ克ル爲メ服役時限間表ニ準シ七時ニ過ギザル時間農業若クハ工藝ヲ教ヘカ作セシムヘシ

○時間

第四十八條 未決者及ヒ定役ニ服セサル已決囚ハ毎朝日出ノ頃ニ起床シ各其監房ヲ掃除シ畢リ喫飯セ

シム又毎日一時間以内監房外ニ於テ運動ヲ許ス

第四十九條 定役ニ服スル者ハ毎朝日出ノ頃ニ起床シ各其監房ヲ掃除シ畢テ喫飯セシム其起床ヨリ約予一時間ヲ經テ役ニ就カシメ午前十一時前後ニ至テ湯若クハ水ヲ與ヘ正午十二時ニ至リ休役ス飯後潛時休憩シ再ヒ就役日没前罷役セシム其時間ハ列表ニ之ヲ定ム但時宜ニ由リ其時間ヲ伸縮スルヲ得起床寢房及ヒ就役罷役其他ノ動止ヲ令スルハ鈴若クハ柝ヲ以テシ全監一齋ニ動止セシム

第五十條 料程ヲ終リタル者ハ時限ニ拘ハラズ罷役セシム

午飯ニ就カシムルノ際料程ノ大半ヲ爲シ得タルヤ否ヲ驗視スヘシ若シ偷懶ニシテ怠役スル者ハ飯後

ノ休憩ヲ許サス

第二章 工錢

第五十一條 定役ニ服スル囚徒現役一百日ヲ經レハ始テ各自ノ工錢ヲ料定シ之ヲ十分シ重罪囚ニハ其一分輕罪囚ニハ其二分ヲ與ヘ餘分ハ之ヲ監署ニ収ム

定役ニ服セサル囚徒及ヒ未決監ニ在ル者並ニ第十
九條第一款ニ記載シタル懲治人ニシテ作業スル者
ノ工錢ハ十分シテ其三分ヲ監署ニ収メ其七分ヲ與
フ定役ニ服スル囚徒ニシテ當日ノ料程ヲ畢テ仍ホ
作業スル者料程外ノ工錢モ又同シ

第五十二條 第十九條第二款ニ記載シタル懲治人ニ
シテ其尊屬親ヨリ衣食費ヲ自辨スル者ノ工錢ハ其
全分ヲ與ヘ衣食費ヲ自辨スルヲ能ハサル者及ヒ第
三十條ニ記載シタル者ハ工錢ノ内ヨリ衣食費ヲ扣
除シ餘分ハ之ヲ與フ

第五十三條 在監人ニ與フヘキ工錢ハ監署ニ領置シ
毎月ノ首ニ於テ其前月ノ總計金額ヲ本人ニ知ラシ
ムヘシ

第五十四條 各種ノ工錢ハ其地普通ノ僱工錢ヲ準ト
シ各自ニ技能ニ應シ一日若干錢ト定ムヘシ

第五十五條 監署ニ領置ノ工錢ハ本人ノ請ニ由リ親
屬ニ贈與スルヲ許シ又ハ書籍其他必要ノ物品及ヒ

第五十六條 在監人死亡シ監署ニ領置ノ工錢アルト
キハ第三十三條ノ例ニ照シテ處分スヘシ

第五十七條 在監人若シ逃走シタル片ハ已決囚ノ工錢ハ之ヲ没収ス未決者及懲治人ノ工錢ハ其親屬ニ附下ス親屬ナケレバ之ヲ没収ス

第三章 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ニ處セラレタル囚徒押送

第五十八條 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ニ處セラレタル者アルトキハ其宣告書ノ謄書ヲ具シテ内務卿ニ申報シ其指揮ニ從ヒ警察流傳ヲ以テ懲治監ニ押送スヘシ

北海道懲治監ニ於テ管束スヘキ徒流刑ノ囚徒ハ本監官吏ノ臨時派出シタル地マテ押送スヘキモノトス

第五十九條 北海道ニ存ル懲治監ハ毎歲三四回官吏

ヲ派出シ前條第二款ノ例ニ從ヒ押送シタル徒刑流刑ノ囚徒ヲ受取ヘシ

第六十條 徒刑流刑ノ囚徒ヲ押送スル時ハ戒具ヲ用ヒ男囚ト女囚トヲ別ツヘシ遊船中ニ在テハ戒具ヲ用ヒザルモ妨ナシ

第四章 假出獄免幽 ノ者ニ貸與スル屋舎

第六十一條 假出獄免幽ヲ受タル徒刑流刑ノ者其地ニ居住スヘキ家ヲキトキハ屋舎ヲ貸與スベシ屋舎ヲ構造スルハ將來市街村郷ヲ創置スルノ便ヲ計畫スルヲ要ス

第六十二條 假出獄免幽ヲ受ケタル徒刑流刑ノ者其配偶者又ハ其他ノ親屬ヲ招キ同居セント請フトキハ典獄將來營生ノ方法ヲ取亂シ之ヲ許否スベシ

前項ノ請ヲ許ストキハ其配偶者又ハ其他ノ親屬現
住スル地ノ戸長ニ通告スヘシ
其徒刑流刑ノ者嫁娶ヲ爲サントスルトキハ監署ニ
申告セシメ典獄之ヲ許否スベシ

監獄則第二篇終

第三篇

第一章 給與

第六十三條 已決囚ノ獄衣類ハ總テ之ヲ貸與ス

第六十四條 未決者ノ衣類ハ總テ自辨トシ卧具ハ之

レヲ貸與ス若シ卧具ヲ自辨セント請フ者ハ之ヲ許
ス貧困ニシテ衣類ヲ自辨スルヲ能ハサル者ニハ之
ヲ貸與ス

第六十五條 已決囚ノ獄衣ハ赭色トシ懲治人ノ衣服
ハ淺葱色トス

第六十六條 獄衣ハ總テ筒袖トシ長短二種ニ別ツ男
ノ通常服ハ長衣就役ハ短衣トシ女服ハ總テ長衣ト
ス

獄衣ノ外襟ニハ白布ヲ縫着シ之ニ番号ヲ墨書スヘ

シ
第六十七條 在監人ニ貸与スル衣類雜具

通常服

一單衣

一袴

一綿入衣

一襦袢

就役服

一單短衣

一袴短衣

一綿入短衣

一襦袢

一股引

雜具

一蒲團

一蚊蠅

一莞筵

一枕

一帯 長サ 三尺

一褌 長サ 三尺

一手巾

一蓑

一笠

以上ノ貸与品ハ地方ノ便宜ニ依リ之ヲ斟酌取捨シ
澣濯補綴シテ其用ニ充ルヲ得

第六十八條 在監一人一日ノ食糧

一 下白米十分ノ四
一 概割麥十分ノ六

七合

強キ力業ニ服スル者

一同

五合

輕キ力業ニ服スル者

一同

四合

工役ニ服セサル者

一同

三合

及ヒ滿十歲以上ノ未決者
十歲未滿ノ幼者

一 菜

金一錢五厘以下

地方便宜ニ依リ粟稗ノ類ヲ以テ麥ニ代用スルコト
ヲ得

第六十九條

工業ニ勉勵シテ食費ヲ償フヘキ五錢ヲ
得ル者及ヒ其幾倍ヲ得ル者等ニハ其請ニ由リ領置
シタル工錢ヲ以テ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルコトヲ得
但一日金三錢ヲ過ルコトヲ得ス

定役ニ服セサル者ニハ其請ニ由リ領置シタル工錢
ヲ以テ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルコトヲ得但一日金五
錢ヲ過ルコトヲ得ス

第七十條

在監人日用ノ雜費ハ一人一日金一錢二厘
以下トス

第七十一條

監房常置ノ器具

一 貯水器并ニ飲器

木製

一 唾器

同

一 便器

一 小箒

一 洗手盆

木製

第七十二條

浴湯ノ定渡ハ毎年六月ヨリ九月マデハ
五日毎ニ一次十月ヨリ五月ムテハ十日毎ニ一次ト
ス

第七十三條

已決囚及ヒ懲治人ノ糞ハ常ニ之ヲ短雜

シ髭鬚アル者ハ常ニ剃除セシム但未決者ハ此限ニ在ラス

婦女ノ梳髮ハ常ヲ用ヒテ裝飾スルヲ許サス

第七十四條 衣類雜具其他ノ物品ハ種質ニ由リ時々熱湯ヲ用ヒテ之ヲ澣ヒ臭氣ヲ去リ虫害ヲ防クヲ要ス但病者ノ物品ト混一シテ之ヲ晒洗スヘカラス

第二章 疾病

第七十五條 在監人疾病ニ罹レハ病狀ノ經重ヲ科リ其監房若クハ病室ニ於テ醫療セシム

懲治場ニ在ル者ハ性狀ニ由リ其親屬ニ交付スルコトヲ得

第七十六條 病者ノ攝養ニ効アル飲食物又ハ溫ヲ取ル湯婆等ヲ用ルコトヲ要スルトキハ醫師ヲシテ其

者ヲ証明セシメ典獄之ヲ考檢シテ許否スヘシ

第七十七條 傳染病侵襲ノ兆アルトキ其消毒豫防ヲ慎重ニスヘシ若シ在監人中傳染病者アルトキハ直ニ病性及ヒ感染ノ形狀ヲ詳悉シ醫師ノ診察書ヲ副ヘ各其所屬長官ニ報告スベシ

死亡

第七十八條 在監人死亡スレハ典獄看守長醫師并蒞テ之ヲ驗屍スヘシ

未決者又ハ已決囚ニシテ別故アリ再ヒ訊問ニ係ル者死亡シタルトキハ之ヲ其裁判所ニ申報スヘシ

第七十九條 死者ノ親屬若クハ故舊第三十三條ニ記載シタル時限ヨリ二十四時以内ニ在テ遺骸ノ下付ヲ請フトキハ之ヲ許シ其者ヲシテ簿冊ニ署名押印

又ハ花押セシムヘシ

遺骸ヲ請フ親屬故舊ヲキトキハ棺ニ入テ假葬シ其上ニ氏名標ヲ建ツベシ其標ハ約子面三寸長三尺五寸トス

第三章 書信

第八十條 已決囚其親屬故舊ニ書信ヲ贈ルハ六個月間ニ一次トシ一通ニ過ルコトヲ得ス但其他官司ノ訊問等ニ由テ書信ヲ要スルトキ又ハ親屬故舊ニ回答セント請ヒ司獄官吏ニ於テ法律ニ觸ルコトナク且必用ト認タルトキハ此限ニ在ラズ

第八十一條 未決者ニ係ル書信ハ定限ナシ但豫審判事又ハ檢事ノ檢閱ヲ經ルニ非レハ贈答セシムルヲ得ス

第八十二條 懲治人及ヒ幼年ノ已決囚其親屬故舊ニ贈ル書信ハ一個月一次トシ一通ニ過ルコトヲ得ス
第八十三條 在監人ノ發スル書信ハ典獄之ヲ檢閱スヘシ若シ書中忌諱ニ渉ル等ノ文意アルトキハ通信ヲ許サス

第八十四條 外人ヨリ在監人ニ贈リ來タル書信ハ典獄之ヲ檢閱シ適正ノ事項ヲ陳ヘ又遷善ノ諭示ヲ主トシタルモノニ限リ之ヲ本人ニ付與ス若シ在監人ノ改悛ヲ妨ルモノト認ルトキハ之レヲ付與セズ

第八十五條 信書ヲ檢閱スルハ先ツ直行ヲ順讀シ次に逆讀斜讀又ハ横讀シ嫌疑ノ文意アリヤ否ヲ詳查スヘシ

第八十六條 在監人ヨリ發スル書信ハ必ス書信紙ヲ

用ヒシメ典獄之ヲ緘シ封皮ニ其受領スヘキ者ノ住
所氏名ヲ書シ某監獄署ト記シ之ヲ通送ス但郵便稅
ハ自辨セシム
親屬故舊若クハ辯護人ノ信書ハ監獄署ニ宛之ヲ差
出サシムヘシ

第四章 接見

第八十七條 在監人接見セント請フ者アルトキハ典
獄先ツ之ニ面接シテ其氏名族籍營業等ヲ訊ヒ其緣
由ヲ詳悉シ已ムヲ得サルノ事狀アリテ形跡ノ疑フ
ヘキトキハ之ヲ許シ看守長看守茲蒞テ面會セ
シム但密室ニ在ル者ハ接見ヲ許サス
面會ノ時間ハ三十分ヲ過ルヲ得ス若シ面會ヲ請ヒ
シ旨趣ニ違フ談話ヲナシタルトキハ直ニ之ヲ停止

ス

第八十八條 死刑ノ執行及ヒ徒刑流刑禁獄ノ刑ヲ受
タル囚徒ヲ集治監ニ押送ノ以前親屬故舊其囚徒ニ
面會セント請フトキハ前條第一項ノ例ニ依テ之ヲ
許ス但シ面會時間ハ五十分時ヲ過ルヲ得ス

第五章 差入品

第八十九條 未決者及ヒ懲治人ニ其親屬故舊ヨリ書
籍用紙衣服卧具又飲食物ヲ贈ラント請フトキハ之
ヲ許ス但酒又ハ烟草其他挿生ニ害アルモノハ此限
ニ在ラス

第九十條 已決囚ニハ書籍用紙ノ外一切差入品ヲ許
サス

第九十一條 假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者親

屬故舊ヨリ金錢衣服家具等ノ寄贈ヲ受ケタルトキ
ハ其旨ヲ典獄ニ申告セシムヘシ
監獄則第三篇終

第四篇

第一章 教誨

第九十二條 已決囚及ヒ懲治人教誨ノ爲メ教誨師ヲ
シテ悔過遷善ノ道ヲ購ゼシム

第九十三條 教誨ハ免役日又ハ日曜日ノ午後ニ於テ
其職席ヲ開クモノトス

第九十四條 懲治人ニハ毎日三四時間讀書習字算術
度量圖畫等ノ科目中ニ就キ之ヲ教フヘキモノトス
學科ハ懲治場ノ教場ニ於テ之ヲ研究セシメ其學業
ノ進歩ヲ表スル爲メ就學ノ年月卒業ノ科目學業ノ
優劣及ヒ行狀ノ良否氏名年齢等ヲ簿冊ニ記載シ巡
閱官吏ノ檢閲ニ供シ又ハ其尊屬親ニ示スコトアル
ヘシ

第九十五條 各監房内ニ左ノ諸款ヲ揭示シ傍訓釋義
 シテ解シ易カラシムヘシ若シ文字ヲ識ラサル者ア
 レハ入監ノ時ヨリ二十四時内ニ於テ之ヲ讀ミ聽カ
 スヘシ

揭示

- 一 在監人ハ常ニ教令ヲ謹守スヘシ
- 一 平日互ニ和順ヲ主トシ教誨聽聞ノ席ニ就クトキ
 ハ慎テ容止ヲ正フスヘシ
- 一 毎朝父母若クハ其墳墓所在ノ方位ニ向テ禮拜ス
 ヘシ
- 一 毎朝常用ノ諸器具ヲ清潔ニシ之ヲ排列シテ點檢
 ヲ受ケ及ヒ席壁圍廁等ヲ掃除スヘシ
- 一 窓壁若クハ物件ヲ汚損シ不淨器ノ外へ唾キ貯水
 ヲ濫用スルヲ禁ス

- 一 監外ニ出タル時其途上ニ於テ全往ノ者ト交談シ
 及ヒ手ヲ交ヘ或ハ路人ニ聲語スルヲ禁ス
- 一 夜間ハ最モ鎮靜ヲ主トシ說話或ハ發聲又ハ濫リ
 ニ起歩スルヲ禁ス但晝間ト雖モ放歌喧噪又ハ高
 聲ニ誦讀スルヲ禁ス
- 一 許可ヲ得サル物品ヲ監房ニ置キ或ハ膝履ヲ競ヒ
 若クハ賭博類似ノ惡戯ヲナシ或ハ同房ノ者ニ汚
 辱ヲ被ラシメ概襲ニ涉ルカ如キ所爲アルヲ禁ス
- 一 服役中其作業ニ關セサル他事ヲ交談シ及ヒ休憩
 ノ時間部外ノ工場ニ至ルヲ禁ス
- 一 許可ヲ得スシテ衣食其他ノ物件ヲ受與貸借スル
 ヲ禁ス

一監房ニ於テ異常ノ事アレハ晝夜ニ拘ラス道ニ看守所ニ通聲スヘシ

一日没後ハ發病スルモ其症急劇ナルニ非レハ翌朝

ニ至テ醫療ヲ乞フヘキモノトス若シ劇症ナルト

キハ直ニ看守所ニ通聲スヘシ

一獨居ノ者卒カニ病ヲ發シタルトキハ監房ヨリ看守所ニ架スル所ノ響器繩ヲ引キ以テ之ヲ報スヘシ

一病者アルトキハ同房ノ者共ニ介保ニカチ致スヘキハ勿論其看病人タラシムル者ハ切實ニ之ヲ看病スヘシ

一水火風震等ノ際解放ニ遭フ者ハ其解放ノ時ヨリ二十四時内ニ監獄署又ハ警察署ニ其旨ヲ申出ツ

右ノ諸款ニ違フ者及ヒ違フ者アルヲ知テ告ケサル者又ハ官吏ヨリ犯者ヲ問フニ當リ之ヲ舉ケサル者ハ其情狀ヲ量リ處分スヘキモノナリ

年月日 某監獄署

第二章 賞譽

第九十六條 已決囚獄則チ謹守シ且改悛ノ行爲著キ者ハ典獄ニ於テ確認スルトキハ之ヲ賞譽スヘシ

第九十七條 賞譽セシ者ニハ賞譽セシ毎ニ之ヲ表スル爲メ獄衣ノ左袖肩臂間ニ方二寸曲尺ノ淺葱色ノ布ヲ縫著スヘシ

第九十八條 賞表ハ假出獄免幽閉又ハ特赦ヲ具狀スルノ考據ト爲スヲ得

第九十九條 賞表ヲ得タル者ニハ二個月ニ一次親屬
故舊ニ接見及ヒ通信スルヲ許ス

第百條 已決囚若シ在監人ノ逃走ヲ密告シ又ハ捕得
シ或ハ監獄ニ係ル水火災ヲ防禦シ人命ヲ救護シタ
ル者アレハ金二十五錢以下ヲ賞與シ其賞金ハ監署
ニ領置シ本人ノ請ニ由リ必用品又ハ食物ヲ購求ス
ヘシ但第九十七條ノ賞表ヲ與フルノ限ニ在ラス

第百一條 未決監ニ在ル者前條ノ勞動アルトキハ之
ヲ録シテ檢察官及ヒ裁判官ノ參考ニ供ス可シ

第百二條 懲治人第百條ニ適シタル勞動アルトキハ
金二十五錢以下ヲ適宜物品ヲ購ヒ之ヲ與フヘシ

第三章 懲罰

第百三條 已決囚獄則シ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左

ノ例ニ從テ處罰ス

一 絶信 親屬故舊ト書信接見シ絶ス

二 屏禁 晝夜他ノ監房又ハ工場ト隔絶シタル監房

ニ獨居セシメ服役時限表ニ照シテ座作ノ役ヲ料
ス

三 減食 常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ二品ノ
外菜ヲ與ヘズ

四 閤室 閤室ニ入レ常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ
減シ塩湯二品ノ外菜ヲ與ヘス仍ホ卧具ヲ禁ス

第百四條 絶信屏禁ハ有除若クハ無限ト爲シ減食閤
室ハ七晝夜ヲ限トス

減食閤室晝夜ニ滿ルモ改悛ノ狀ナキトキハ一旦之
ヲ免シ更ニ之ヲ料スルコトヲ得

第百五條 懲治人及ヒ十六歳未満ノ已決囚獄則ヲ犯
ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從處罰ス

一 獨慎 晝夜一室ニ獨居セシム

二 減食 常食ノ半以内ヲ減ス但菜ヲ減スルノ限ニ
在ラス

第百六條 獨慎ハ七晝夜以内減食ハ三日以内トス

第百七條 未決者及ヒ拘留ノ刑ヲ受ケシ者教令ニ順
ハス或ハ同監ノ者ヲ煽惑シ又ハ其他ノ規則ヲ犯ス
トキハ所犯ノ輕重ヲ量リ第百三條第百五條ニ準擬
シ減食スルコトヲ得

第百八條 賞表ヲ有スル者處罰ヲ受タルトキハ賞表
一個又ハ數個ヲ褫奪ス

第百九條 無期徒刑ノ囚徒逃走シ若クハ獄舎獄具ヲ

毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シ其他重罪輕罪ヲ犯シタ
ルキハ三月以上五年以下兩脚又ハ一腳ニ鉄ヲ施シ
仍ホ鐵丸屬シタル鉄索ヲ其欵ニ貫キ腰間ニ繚帶セ
シメ繚帶ノ所ニ下鍵ス但監房ニ在ルモ晝間ハ之ヲ
施スモノトス

若シ再ヒ重罪ヲ犯シタルトキハ五年以上十年以下
前項ノ例ニ照シテ處罰ス

鉄丸ノ量ハ二百目以上一貫目以下トナシ被罰者ノ
體力ニ應シテ之ヲ施ス丸ハ素尾ニ屬シ地上ヲ轉ハ
スモノトス其外役ニ服スルトキハ鉄丸ヲ除キ二人
聯絆ノ法ニ從フ

第百十條 減食或ハ闇室ノ罰ニ處スヘキ者アルトキ
ハ醫師ヲシテ診視セシメ身體ニ妨ナキヲ證シテ後

之ヲ行フヘシ
 第百十一條 屏禁減食闇室又ハ獨慎ノ罰ニ處シタル
 後ハ典獄若クハ看守長時々其動靜ヲ窺察シ狀況ニ
 由リ醫師及ヒ教諭師ヲシテ之ヲ問ハシムルコトア
 ルヘシ
 第百十二條 罰則ニ處セラレタル者改悛ノ狀著ル
 トキハ之ヲ免スルコトヲ得
 第百十三條 假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者監
 署ノ命令ニ違背シタルトキハ七日以下之ヲ拘置ス
 ルコトヲ得

典獄(檢印) 懲治人名籍 主檢 書記氏名印

本管	某管下國郡村町番地位何某 <small>男弟</small> 某 <small>女妹</small>
出生地	何國郡村産 族籍
氏族	何 某
氏名	某年月日生
年齢	當何年何月何年何ヶ月
懲治人及ヒ尊	懲治人ノ營業
屬親ノ營業	主願者タル尊屬親ノ營業
親屬	父母兄弟及ヒ配偶者等ノ有無

入場ノ年月日	明治何年月日午前 後第何時入場
入場ノ事狀	
身 材	長何尺何寸何分肥瘠強弱
容 貌 音 聲	面體眉毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黑白四肢ノ姿態其他痘斑瘰癧子癭瘰癧黑痣癩風天鯨創癩ノ類及ヒ音聲ノ高低ヲモ細緻ニ具載ス
教 育 及 ヒ 宗 門	入場ノ時文字ヲ知ルヤ否或ハ讀書ヲナスヲ得ス或ハ善ク讀書ヲナス 入場後進學ノ景況 何宗或ハ宗門不詳
入場中ノ賞罰	明治何年月日何ノ賞罰ヲ行フ
書信贈答ノ 月日	何年何月日何國郡村町住親屬若クハ朋友ヨ書信來後
懲治場ニ留置ノ 宣告ヲナセシ 裁判所	明治何年何月何日某裁判所ニ於テ若干年月日留置ノ宣告
曩ニ處斷ヲ經シ者ナル時ハ 其事由	犯由ノ大畧及ヒ某裁判所
事 變	明治何年月日病死或ハ變死或ハ逃走或ハ他監ニ移ス
放 還	明治何年月日某家ニ放還
典獄(捺印)	未決者名籍 主檢 書記氏名印

本管	某管下國郡村番地住又ハ何某子弟姪女	
出生地	何國郡村産	
氏族	族籍	
氏名	何某	
年	某年月日生	
營業及親屬	當何年何月何年何ヶ月	
乳兒提携	營業ヲ詳記スヘシ 父母兄弟及ヒ配偶者子孫ノ有無	
入監ノ年月日	男或ハ女 叔監ノ時何歳何ヶ月	
時及ヒ罪件	明治何年月日午 <small>前</small> 後第何時入監	
身材	何罪ヲ犯ス	
容貌音聲	長何尺何寸何分肥瘠強弱	
教育及	面體眉毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黑白四肢ノ姿態其他痘斑癩子癭瘡黑痣癩風天鯨創癩ノ類及ヒ音聲ノ高低ヲモ細緻ニ具載ス	
と宗門	文字ヲ識ルヤ否或ハ讀書ヲナスヲ得ス	
入監中ノ賞罰	或ハ善ク讀書ヲナス何宗或ハ宗門不詳	
書信贈答ノ	明治何年月日何ノ賞罰ヲ行フ	
年月日	明治何年月日何國郡村住親屬若シハ朋友ニ書信未獲	

嘗 談 官 ノ 氏 名	裁判長ノ氏名ト死刑ハ裁判長ノ外其行 刑ヲ臨監セシ官吏ノ氏名
保 釋 責 付	明治何年月日保釋若クハ責付
事 變	明治何年月日病死或ハ脱監
終 結	明治何年月日放免若クハ刑ノ宣告執行 又ハ他監押送

典獄(檢印) 已決囚名籍 主檢 書記氏名印

本 管	某管下國郡村 ^冊 番地住又ハ何某子弟妻女
出 生 地	何國郡村 ^冊 産 族 籍 何 某
氏 名 年 齡	某年月日生 當何年何月何年何ヶ月
營 業 及 親 屬	營業ヲ詳記スハシ 父母兄弟及ヒ配偶者子孫ノ有無
乳 兒 提 携	男若クハ女 叔監ノ時何歳何ヶ月 父母ニ先テ出監シ或ハ死去シタルト キハ之ヲ詳記ス
刑名及ヒ宣告 ノ月日裁判所 ノ名稱	何刑若干年月日 明治何年月日何裁判所ニ於テ宣告

收監ノ年月日

明治何年月日午前第何時入監後

犯由ノ大略
及ヒ犯數

財物ヲ竊取シ或ハ人ヲ毆傷スル等犯罪ノ大略ヲ記ス若シ再三犯テレハ往年何罪ヲ犯シ其裁判所ニ於テ何刑ニ處セラル

身 材

長何尺何寸何分肥瘠強弱

容 貌 音 聲

面體眉毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黑白四肢ノ姿態其他痘斑瘰癧子癭瘰癧黑痣癩風天鯨創癩ノ類及ヒ音聲ノ高低ヲモ細緻ニ具載ス

教 育
及 宗 門

文字ヲ識ルヤ否或ハ讀書ヲナスヲ得ス或ハ善ク讀書ヲナス何宗或ハ宗門不詳

入監中ノ賞罰

明治何年月日何ノ賞罰ヲ行フ

書 信 贈 答

ノ年月日

明治何年月日何國郡村住親屬若クハ朋友ニ書信發

假出獄免幽閉

明治何年月何月何日假出獄或ハ免幽閉

事 變

明治何年月日病死或ハ變死或ハ脱監或ハ何罪ヲ犯シ後々未決監ニ入ル

終 結

明治何年月日満期放免又ハ特赦

假出獄之證票

某管下國郡村番地位又ハ何某子弟妻女

族籍

何 某

身 某年 月 日 生
明治何年何月何年何ヶ月

名籍ノ様本ニ倣ヒ詳記スヘシ

容貌

上ニ全シ

罪質犯數
刑名刑期
及ヒ附加刑

何年月日某裁判所ニ於テ宣告ヲ受
ケ何年月日ヨリ執行何年月日満期

- 一此者ハ假出獄ノ裁可アリタルヲ以テ本日出獄ヲ許シ何地ヲ通過シ居住スヘキ何地ヘ約子何日迄
 - ニ到着シテ即時其地ノ警察官ニ届出テ此證書ヲ納メタル上住宅ヲ定ムヘキ旨申渡シタル事
 - 一此者ハ本刑期限間特別監視ニ付セラレタルト
 - 一此者假出獄中受ニ重罪輕罪ヲ犯スコトアルハ直ニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレザル事
 - 一此者發病其他ノ事變ニ因テ途中ニ滞留スルトキハ滞地ノ警察官ヨリ其證書ヲ受ケ居任地ニ到着ノ上此證書ト共ニ住地ノ警察官ニ差出スヘキ旨申渡シタル事
- 右之通心得サセ假出獄ノ證票ヲ與フル者也

某監獄署

明治何年 月

日 署
印

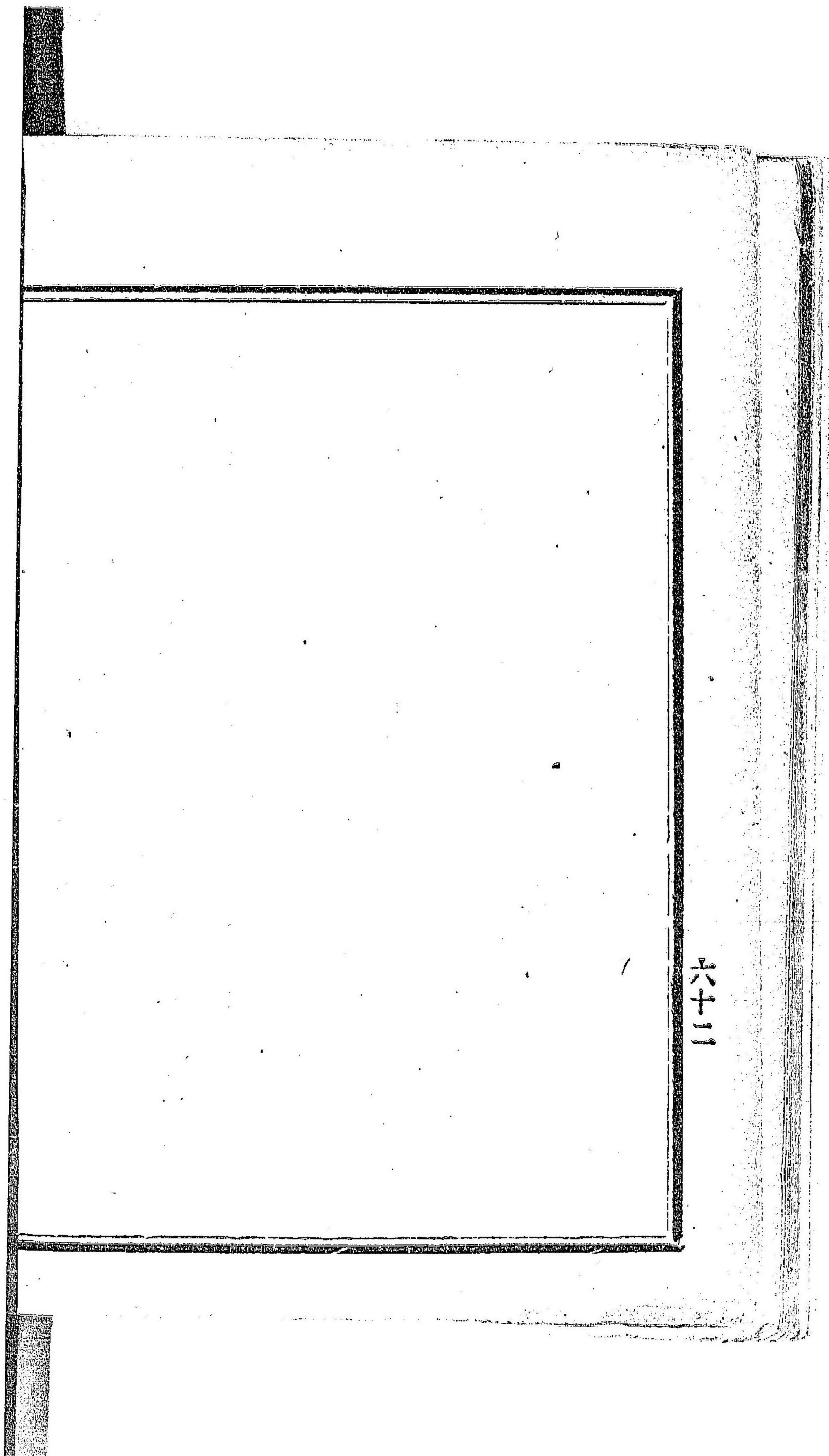
長官何某 印

假出獄ヲ受タル者所有金アルトキハ此證票ノ裏
 面若クハ欄内ニ左ノニ款ヲ附記スヘシ
 一此者ノ所有金ハ當監署ヨリ其居住スヘキ地ノ警
 察官ニ送り遣シタル事
 一警察官ヘ送り遣シタル金圓ハ其居住地ニ到着ノ
 後何日ニテモ受取得ヘキト雖モ同官ニ於テ正當
 ノ入用ナリト認定ノ上ニ非レハ一次ニ之ヲ渡サ
 ズルベキ事

料紙半紙

何管下某監獄署○在監人書信紙○明治何年 月 日

一在監人ヨリ其親屬故舊ニ送ル信書ハ此紙ニ書
 寫スヘシ
 一書信ノ文句規則ニ背キタルヲアルトキハ其送
 致ヲ止メ仍ホ相當ノ罰ニ處スルヲアルヘシ



囚徒服役時限表

月名/時限	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
起 床	午前七時〇二分	六時三十八分	六時〇六分	五時三十二分	五時〇一分	四時四十九分	四時五十分	五時十六分	五時四十八分	六時二十二分	六時五十二分	七時〇八分
就 役	午前八時〇二分	七時三十八分	七時〇六分	六時三十二分	六時〇一分	五時四十五分	五時五十一分	六時十六分	六時四十八分	七時二十二分	七時五十二分	八時〇八分
小 憩	午前第十時ヨリ 第十時十分間	第十時ヨリ 第十時十分間	全 上	第九時四十分ヨリ 第九時十分間	第九時ヨリ 第三十分間	全 上	全 上	全 上	第九時五十分ヨリ 第十時十分間	第十時ヨリ 第十五分間	全 上	第十時ヨリ 十分間
午 飯	正午十二時ヨリ 午五十分時間	十二時ヨリ 十二時十分間	全 上	全 上	十二時ヨリ 十二時十分間	十二時ヨリ 十二時十分間	全 上	全 上	十二時ヨリ 十二時十分間	全 上	全 上	十二時ヨリ 五十分時間
罷 役	午後三時三十分	三時五十分	四 時	四時三十分	五 時	五時二十分	五時十分	四時五十分	四時二十分	三時四十分	三時二十分	全

約テ日出ノ時
刻ヲ以テ起
ルニ時刻トナ
然ルニ年々季
節ニ早晩アリ
日々分秒ニ差
刻アリ加ルニ
東國西國ノ別
アリ此ニ由テ
何レノ地方ニ
於テモ分秒ノ
差異ナキヲ保
ツ能ハズ故ニ月
毎ニ大略之ヲ
平均シテ始メ
其起床時刻ヲ
登載ス各地ノ
司獄官此表ノ
區分ヲ準トシ
テ役囚ヲ遇ス

取	罷役	晚飯	還房	服役時間合計
午前 三時三十分	三時五十分	一時二十八分間	午後 四時五十八分	六時二十八分間
四時	四時	一時五十四分間	五時五十四分	六時五十七分間
上 四時三十分	四時三十分	一時五十八分間	六時二十八分	七時三十五分間
間 五時	五時	一時五十八分間	六時五十八分	八時三十八分間
上 五時二十分	五時二十分	一時五十四分間	七時十四分	八時五十九分間
上 五時十分	五時十分	一時五十九分間	七時〇九分	九時〇五分間
上 四時五十分	四時五十分	一時五十四分間	六時四十四分	八時四十九分間
上 四時二十分	四時二十分	一時五十一分間	六時十一分	八時〇四分間
上 三時四十分	三時四十分	一時四十九分間	五時三十七分	八時十二分間
上 三時二十分	三時二十分	一時四十八分間	五時〇八分	七時〇三分間
全 上	上	一時三十二分間	四時五十二分	六時十三分間
		右ノ時間ニシ テ工器ヲ併理 シ及ヒ餐浴等 ヲ爲サシム	約子日没ノ時 刻ヲ以テ入監 ノ時トナス	

囚徒服役時限表

月名/時限	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
起 床	午前七時〇二分	六時三十八分	六時〇六分	五時三十二分	五時〇一分	四時四十九分	四時五十分	五時十六分	五時四十八分	六時二十二分	六時五十二分	七時〇八分
就 役	午前八時〇二分	七時三十八分	七時〇六分	六時三十二分	六時〇一分	五時四十五分	五時五十一分	六時十六分	六時四十八分	七時二十二分	七時五十二分	八時〇八分
小 憩	午前第十時ヨリ 十分時間	第十時ヨリ 十五分時間	全 上	第九時四十分ヨリ 二十分時間	第九時ヨリ 十分時間	全 上	全 上	全 上	第九時五十分ヨリ 二十分時間	第十時ヨリ 十五分時間	全 上	第十時ヨリ 十分時間
午 飯	正午十二時ヨリ 十五分時間	十二時ヨリ 十分時間	全 上	全 上	十二時ヨリ 十分時間	十二時ヨリ 十分時間	全 上	全 上	十二時ヨリ 十分時間	全 上	全 上	十二時ヨリ 十分時間
罷 休	午後三時三十分	三時五十分	四	四時三十分	五	五時二十	五時十	四時五十	四時二十	三時四十	三時二十	全

約テ日出ノ時刻ヲ以テ起床ノ時刻トナス然ルニ年々季節ニ早晩アリ日々分秒ニ差刻アリ加ルニ別東國西國ノ別アリ此ニ由テ何レノ地方ニ於テモ分秒ノ差異ナキヲ保ツ能ハズ故ニ月毎ニ大約之ヲ平均シテ時刻ヲ起床時刻ヨリ登載ス各地ノ司獄官此表ノ區分ヲ準トナシ宜シ裁酌シテ役囚ヲ遇ス

飯	暁	遷	房	服役時間合計
ヨリ 時間 午後 三時三十分	一時二十八分間	午後 四時五十八分	六時二十八分間	
三時五十分	一時三十二分間	五時二十八分	六時五十七分間	
上 四時	一時五十四分間	五時五十四分	七時三十五分間	
上 四時三十分	一時五十八分間	六時二十八分	八時三十八分間	
間 五時	一時五十八分間	六時五十八分	八時五十九分間	
上 五時二十分	一時五十四分間	七時十四分	九時〇五分間	
上 五時十分	一時五十九分間	七時〇九分	八時四十九分間	
上 四時五十分	一時五十四分間	六時四十四分	八時〇四分間	
上 四時二十分	一時五十一分間	六時十一分	八時十二分間	
上 三時四十分	一時四十九分間	五時三十七分	七時〇三分間	
上 三時二十分	一時四十八分間	五時〇八分	六時十三分間	
全 上	一時三十二分間	四時五十二分	六時十二分間	

右ノ時間ニシテ
テ工器ヲ併理
シ及ヒ餐浴等
ヲ爲サシム

約テ日没ノ時
刻ヲ以テ入監
ノ時トナス

明治十八年四月三日出版御届
同年四月廿四日出版
同年四月廿七日發兌

(定價金拾錢)

德島縣平民

出版人

世渡谷文吉

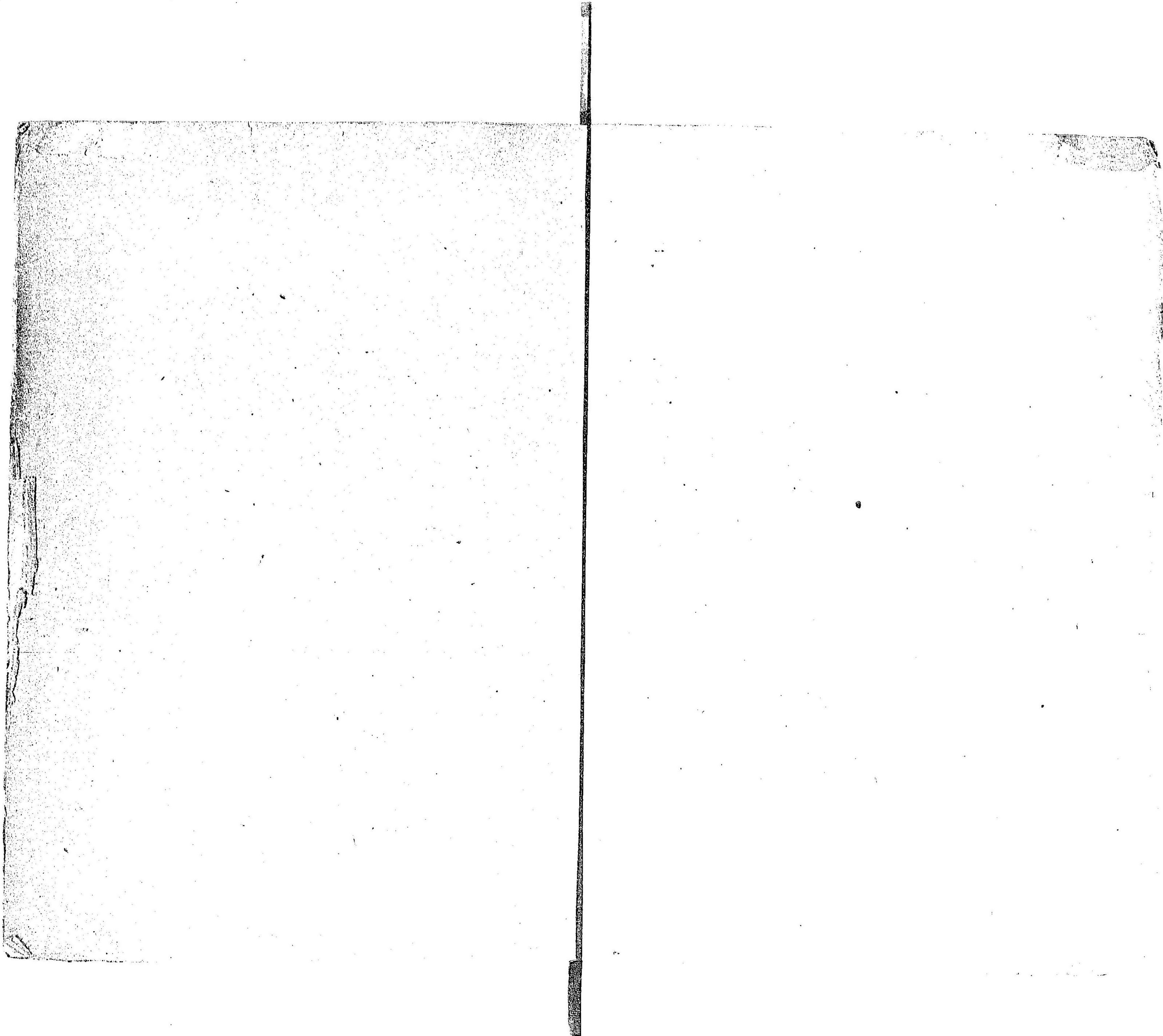
阿波國德島通町九十五番地

大坂府平民

發兌人

此村庄助

大坂南區順慶町通四丁目
三番地



67
156

東 京 圖 書 館				
一 冊	號	二 架	辰 二 函	法 律 類
				和 書 門

禁電子式複写

監獄則

全

東 京 圓 書 館					
一	一	七	六		
	五		七		
冊	号	架	函	屬	類

67
156

CZ
765
01

037267-000-0

CZ-765-01

監獄則

此村庄助

M18

BBT-0076

